

より良く生きる ―出居清太郎先生の世界― 第4回

山本博也

(1)大晦日に正月餅をすっぽりと

ある大晦日の夜であった。貧しい老婆が来て、くどくどと泣き言を並べた。年の瀬も押し詰まったのに主人や倅に働

きがなく、越すに越せないと言って泣いた。そばで聞いていた菊のが、「お婆さん、これ持ってお行き…」と言って、四十切

れほどの切り餅を風呂敷包みにして渡した。老婆はうろたえた。「いえ、そんなつもりで申したのではございません。それではあまりに…」「私たちのことなら

いいのよ。いくらでもあるのだからね。」

実はそれが正月餅のすべてであった。あとには一枚の餅も残っていなかった。老婆は何度も礼を言って帰っていった。

「いいわね、明日の元日はお餅なしだけど。」

「うむ、いいよ。」

としか言えなかった。

(中略)

餅はなくても元日はやって来た。いつものようにご飯とお汁、少しのお煮しめだけでお祝いをしていると、一人の人が挨拶に来て、鏡餅を置いていった。

「私たちには、やっぱりお餅があるのね」

と言う菊のの声が明るかった。

(2) 歯・肩・頭の痛みと高熱の中で

十五日の夜は高熱に悩んだ。歯と肩と頭との痛みによる熱であった。十六日も十七日も休まずに、訪ねてくる会員と語り、悩みをうったえる会員を指導した。苦しくとも、気分が重苦しくとも、いつものように笑顔を見せて耐えた。

「私はとても起きておれない。休ませてもらう」と言ってしまうえばそれですんだことであろう。しかし、悩める世の中の、悩める人々の顔をみれば、それは言えなかった。教えの親はどこまでもあたたかい言葉で抱きかかえていくのが、たった一つの道であった。

(出居清太郎先生の言葉から)

相手のことを思いやること―ひとに親切にすること、相手を喜ばせること、相手のために何かをすることなど―は私たちが行動をとる時の第一の指針となるものだと思います。

宮沢賢治は、「雨ニモ負ケズ」の詩の中で、

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウニ入レズニ

(中略)

東ニ病氣ノコドモアレバ



カット 大西 恵

行ッテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ッテ稲ノ束ヲ負イ

南ニ死ニソウナ人アレバ

行ッテコワガラナクテモイイトイイ

北ニケンカヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイイ

と言っていました。

ひとのために何かをすることを、「利他主義」と呼ぶことがあるようですが、利他主義は、その結果自分に利益が戻ってくることをもくろむ、結局は利己主義ではないか、と警戒する声もあります。

選挙で投票してもらったために金品を渡すとか、業界に有利な法律を作ってもらうために政治家に賄賂を贈るとか、官

僚が出世のために上司の意向を忖度するなどは、確かに「利己」のために「利他」をおこなうものだと言えます。

身近なところでは、しつけや教育に熱心な母親たちの中には、「子どものため」と言いながら、実は自分が仲間の母親たちの間で優越感を持ちたいためという場合もあるのではないのでしょうか。

「利他主義」についてはまた、それが相手を支配することにつながるのではないかと懸念も言われます。何かをしてあげたことによつて、相手を見下したり、相手を部下のように扱ったりしないかということでしょう。確かに相手を人として敬う、人格を尊重するということが必要ならばそうなってしまうかも知れません。

しかし、さきほどの宮沢賢治の詩には、下心は全く感じられませんし、相手を見下すようなそぶりもありません。(1)

(2)のお話の先生ご夫妻の姿もそうです。純粹に相手を思いやる気持ちから、相手の役に立つことを、相手の喜ぶことをするということです。これが私たちの目指すべきところだと思います。また実際、私たちにもできることだと思います。

利己主義から出ているのではないか、相手を支配することにならないかという点には留意する必要がありますが、「相手のために何かできることをする」ということを私たちの行動の第一の指針とすることに躊躇する必要はないと思います。

ところで、思いやりの心から相手によかれと思つてなした行為が、のちに、どういうかたちでか、自分にとって有難い、うれしいと思える結果をもたらすということは、人の世の真実だと思います。(1)のお餅の話はそれを象徴していますが、原因となつた行為とその結果との関係は普通はわかりません。また原因となる行為とその結果とが一對一に対応するとも限りません。むしろ、相手によかれと思つてなす行為を重ねることによつて、いつか、どういうかたちでかわからないけれど、必ず自分にとっての福をもたらしてくれる、というのが実相なのではないでしょうか。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1

修養団捧誠会 TEL 03-3971-1493